

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年7月13日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・4歳児「ひまわりの製作（絵の具で葉っぱを描く）」

<テーマ設定理由>

園庭に種をまき、水をまき、生長を楽しみにしながら大切に育ててきたひまわり。そのひまわりがついに開花し、子ども達は喜びや驚きとともに花を眺めている。その感動からひまわり作りを行い、自分なりのひまわりを作ることを楽しむ活動を行った。今回は、ひまわりの茎と葉を描きこんでいる。

2. 活動スケジュール

4月下旬にひまわりの種をまきました。それ以後、子ども達が水撒きをしました。だんだん育ってくる過程を楽しみ、開花してから、夏祭りのお神輿づくりのため、ひまわりを作りました。今回はそのひまわりに育ててきた中で感じたり、見たりしてきた葉の様子や茎の様子を絵の具で描きます。園庭のひまわり以外にも保育室から眺めた園庭の先に大きな背丈のひまわりが咲いていました。その様子も子ども達は観察していたので、感じたままにひまわりの葉や茎を描きました。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ひまわりの花の作品を貼った模造紙
- ・新聞紙（シートとして）
- ・絵の具（緑や黄色など）
- ・筆、バケツ

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・自分がイメージしたひまわりの葉を絵の具で描く
- ・育てたひまわりや身近な場所に咲いているひまわりについて思い出しながら、大きく描いたり、小さく描いたり、好きな大きさを思い浮かべて描く、。
- ・ひまわりの葉の色を思い浮かべて、絵の具の色を混ぜたり、色を重ねたりしてする。
- ・左右対称にしたり、交互に色を変えるなど、葉の様子をイメージして好きな葉の形を描いたり、絵の具の色や描き方を工夫する。
- ・友達の描いた葉の様子を見て、気付いたことを言葉にしたり、並んだ作品を見ながら言葉のやりとりをする。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- ・保育士「今日はみんなのひまわりに葉っぱをつけてあげようね。葉っぱはどんな形かな？」
- 子どもA「こうやってトゲトゲしてる！」
- 子どもB「大きいのと小さいのあるよ。」
- 子どもC「みどり、どっちの色にする？」
- 子どもD「こっちのきみどりがいい。まぜたらもっと本物みたいになるかな？」
- 保育士「いいね、ちょっとだけまぜてみようか。どんな色になるか楽しみだね。」
- ・子どもC「葉っぱはどこから生えているかな」
- 子どもE「ここ、くきから出てる！」
- 子どもA「じゃあ、くきからびよーんって伸びるように描いてみよう。」
- 子どもA「はみ出しちゃった…。」
- 保育士「大丈夫だよ。お外にはみ出しても、風でゆれてるみたいで素敵だね。」
- 子どもA「じゃあ、ゆれてる葉っぱにする！」
- ・子どもB「ぼくのひまわり、いちばんおおきいよ。」
- 子どもC「わたしのはこどもひまわり。ままひまわりとならんでるの。」
- 保育士「親子ひまわり、いいね。」
- 子どもB「みんなのひまわりが家族みたい。」
- ・子どもA「指でポンポンしてみると葉っぱのギザギザができるよ。」
- 子どもD「ほんとだ、でこぼこした葉っぱになった！」
- 子どもE「ぼくもやりたい！ここもポンポンする！」
- ・保育士「おともだちが塗っているところ、よく見てごらん。どんなふうにぬってる？」
- 子どもB「ゆっくりぬってる。こぼれないようにしてる。」
- 保育士「そうだね。いいところも見つけれられたね。」
- ・子どもC「もっと葉っぱぬってないところある？」
- 子どもD「ここ、あるよ。たくさんばっぱぬるね。」
- 保育士「みんなで力を合わせて、はっぱいっぱいのひまわり畑になってきたね。」
- ・子どもD「でも、すみれぐみのひまわりはあんまり大きくならなかったね」
- 「ほら、隣の公園のひまわりの方が大きいよ」
- ・子どもC「今年の夏は暑すぎて大きくならなかったのかもね」
- ・子どもA「筆をちょんちょんってするとぼたぼたしないよ」
- 子どもB「まざったら色がきれいだね」



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもたちは、葉の形や色、枚数などに自分なりのイメージをもって言葉にしながらかき進めており、ひまわりへの関心や観察が深まっていることに気づいたと考えられる。また、友だち同士で作品を見合せて「家族みたい」「ギザギザができるよ」などと伝え合う姿から、互いの表現を認め合いながら主体的に活動を広げていることを感じたと考えられる。
- ・葉の大きさ・形・枚数を自分で決めたり、「くさからびよーんって伸びる」「3まいにする」などと言葉にして描く姿から、ひまわりの葉の形を自分なりに捉え、想像と実物のイメージを行き来しながら表現していることに気づいた。
- ・「親子みたい」「家族みたい」といった発言や、並べる・増やすことを楽しむ様子から、単なる個々の製作にとどまらず、作品を通して関係性や物語を感じ取っていることを知った。
- ・方法や正解を示すのではなく子どもの気づきを言葉で受け止めながら問い返すことで、子どもの発想がさらに広がることを実感したと考えられる。
- ・外に飾ったり、窓から見える本物のひまわりと見比べたりする環境を用意したことで、子どもが自ら見に行き、違いに気づいて表現に生かす姿が見られ、環境構成が探究心を促すことを再確認したと考えられる。
- ・子どもが興味をもった「ギザギザ」「たくさん葉」「家族みたいなひまわり」といった視点を、次の観察活動や絵本、他の植物の製作などに生かしていくことで、継続した探究活動につながると気づいたと考えられる。
- ・子どもが自分で感じて確かめようとする姿を尊重し、大人の知識を教え込む前に「見て・触れて・考えて・表現する」経験を積み重ねられるようにすることが、今後の造形活動全般のねらいになると振り返ったと考えられる。